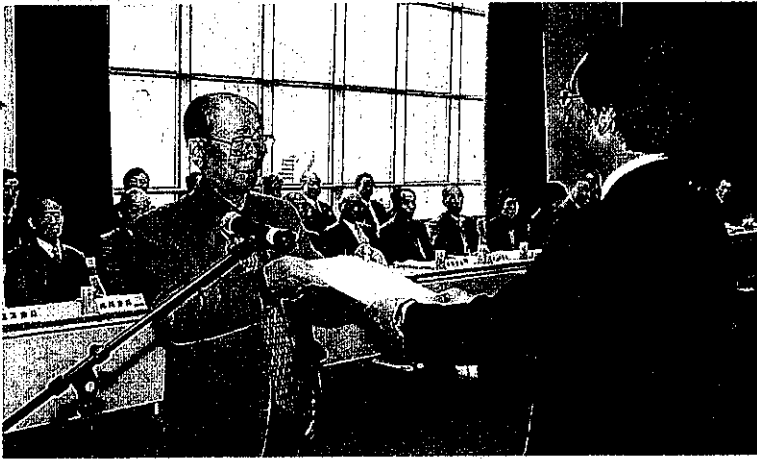


北日本 平成19年11月30日

39施策のメニュー提示

黒部市総合振興計画審 前期基本計画を答申



堀内黒部市長(右)に、総合振興計画の前期基本計画を答申する長井会長

黒部市総合振興計画審 議事録

富山大教授は二十九日、市国際文化センター・コラーレで第五回全体会を開いた。新年度から五年間に取り組む施策を盛り込んだ前期基本計画をまとめ、堀内市長に答申し

総合振興計画は新市のまちづくりの指針で、基本構想とそれに基づく基本計画、実施計画で構成。計画期間は二十年度から十年間で、前期基本計画は二十四年度までの施策を具体化するために策定

した。

基本構想で定めた六つのまちづくり方針に沿って、計三十九の施策で構成し施策ごとの事業メニューを示すとともに、一部に目標値を設定した。事業メニューには、広域観光ルートの開発をはじめ、北陸新幹線新駅広場などの整備や、新市庁舎建設などが含まれ、いずれも前期計画期間中に着手、推進する。

目標値では、二十四年度の観光客の入り込み数を、現在より五十万人多い年間二百二十万人に設定。新駅広場などの整備

率は82割とし、学校施設等に策定する。の耐震化率は現在の67割から76割に引き上げる。全体会終了後、答申をを受けた堀内市長は「新しい実現させたい」とあいさつした。

(平成19年) 11月30日 (金曜日) とやま東 (22)

黒部市総合振興計画

前期基本計画を答申

年度内に実施計画策定

富山新聞 平成19年11月30日

黒部市総合振興計画審 議事録

基本計画は、基本構想で定めた自然共生、産業経済、都市基盤、市民生活、教育文化、行財政の分野の六つのまちづくり方針に沿って、三十九の施策で構成される。施策ごとに課題や事業メニューを設定し、一部には数値目標も掲げた。重点項目となっている新市庁舎の建設や北陸新

幹線新駅周辺整備などを盛り込んだほか、観光客の入り込み数や一般会計の市債残高などについて五年後、十年後に区切って数値目標を定めた。長井会長から基本計画の答申を受けた堀内市長は「新しいまちづくりへの挑戦が始まる。市民と行政が目標を共有し、実現に向けて努めていきたい」とあいさつした。市は、基本構想と前期基本計画を来年二月に全戸配布し、市民に周知を図る。

中日 平成19年11月30日
 前期基本計画に
 重点事業59項目

黒部市

黒部市の今後のまちづ
 くりの指針となる「総合
 振興計画」のうち、二〇
 〇八―二年度の具体的
 な施策を定めた前期基本
 計画が二十九日まとまっ
 た。

計画は二百五十六項目
 の事業を列挙。このうち
 宇奈月温泉を利用した多
 目的施設の建設や新庁舎
 の建設、北陸新幹線新駅
 広場等の整備など五十九
 項目を重点事業に挙げ
 た。ただ、大半の事業が
 後期計画（二二―二七年

度）にまだ、完成年度
 は示されていない。

前・後期を通じて十年
 間で達成を目指す目標に
 は、大区画化ほ場を五十
 七％に倍増することや、
 市内観光客の入り込み客
 数を八十万増やし二百
 五十万人とすること、現
 在ゼロの生涯学習ボラン
 ティア登録者を三百人に
 することなどを掲げた。

この日、総合振興計画
 審議会の長井真隆会長か
 ら答申を受けた堀内康男
 市長は「計画は新しい黒
 部市の挑戦であり、実現
 に向け市民と協働で取り
 組みたい」と述べた。
 （平井剛）

読者 平成19年11月30日
 前期基本計画を
 黒部市長に答申
 市総合振興計画審議会
 黒部市の今後10年の町づ
 くしの指針となる「市総合
 振興計画審議会」（長井真

隆会長）は29日、具体的な
 数値目標を定めた2008
 ～12年度までの前期基本計
 画を堀内康男市長に答申し
 た。

同計画は、自然との共生
 や、産業育成など、市総合
 振興計画の基本構想で定め
 た六つの政策の柱につい
 て、実現のために39の施策
 を挙げている。14年度末ま
 でに開業予定の北陸新幹線
 の新駅前広場の整備率を、
 今年度の2％から12年度に
 82％とするなどの目標を掲
 げた。

審議会は市内の産業、福
 祉、教育など各分野のほか、
 学識経験者や県の関係者ら
 約60人が参加し、昨年9月
 から市総合振興計画を審議

してきた。13～17年度まで
 の後期基本計画は、前期計
 画の進み具合や社会情勢の
 変化を見て、数年後に策定
 する。